

平成 30 年 8 月 3 日

九州地方整備局

「みなとオアシス対馬 厳原」が新たに登録されます

～南北のみなとを核として、国境の島「対馬」でのにぎわい創出～

平成 30 年 8 月 4 日に「みなとオアシス対馬 厳原」（長崎県対馬市）が 119 箇所目のみなとオアシスに登録されます。発展を続ける「厳原港」において、地域住民の交流促進や地域の魅力の向上につながる取り組みを行います。

国土交通省港湾局では、地域住民の交流や観光の振興を通じた地域活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、住民参加による地域振興の取組みが継続的に行われる施設を「みなとオアシス」として登録してきており、平成 15 年からこれまでに全国で 118 の施設が登録され、地域の活性化に寄与しています。

この度「みなとオアシス対馬 厳原」（長崎県対馬市）を国土交通省港湾局長が登録し、119 箇所目となるみなとオアシスとして活動を開始することとなりました。なお、同日に登録される「みなとオアシス対馬 比田勝」を含めて、みなとオアシスの登録は、長崎県で 4 箇所となります。

「みなとオアシス対馬 厳原」の代表施設である「厳原港国内ターミナル」は対馬の海の玄関口として、売店や軽食喫茶を備えるほか、観光協会窓口を設置しており、対馬観光の中心となっています。

また、構成施設として観光拠点であるとともに観光客と地域住民の交流の場を提供する「観光情報館 ふれあい処つしま」、厳原港の海産物等を販売する朝市が毎週土曜に開催される「久田魚市荷さばき地」等があり、それらの施設がみなとオアシスとして一体的な活動を行うことにより、より効果的な地域振興に寄与することが期待されます。

※ みなとオアシス： 旅客船ターミナル、文化交流施設、みなとの資料館、情報提供施設、地元産品の物販施設や飲食施設などで構成されています。「みなとオアシス対馬 厳原」の詳細については、別紙－1、別紙－2、別紙－3、別紙－4 をご参照願います。



みなとオアシス標章（シンボルマーク）

<問い合わせ先>

国土交通省 九州地方整備局 港湾空港部

クルーズ振興・港湾物流企画室

室長 河野 正文（かわの まさふみ）

課長補佐 西坂 博文（にしざか ひろふみ）

Tel:092-418-3340（代表）

Tel:092-418-3379（直通）

Fax:092-418-3037

「みなとオアシス」の概要

みなとオアシス所在港湾の一覧

○みなとオアシスとは

- ・地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、平成15年に制度を設立
- ・国土交通省港湾局長が住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設を登録するもの

○みなとオアシスの担う役割

- ・地域住民、観光客、クルーズ旅客等の交流及び休憩
- ・地域の観光及び交通に関する情報提供
- ・その他（災害時の支援、商業機能 など）

○みなとオアシスの構成施設

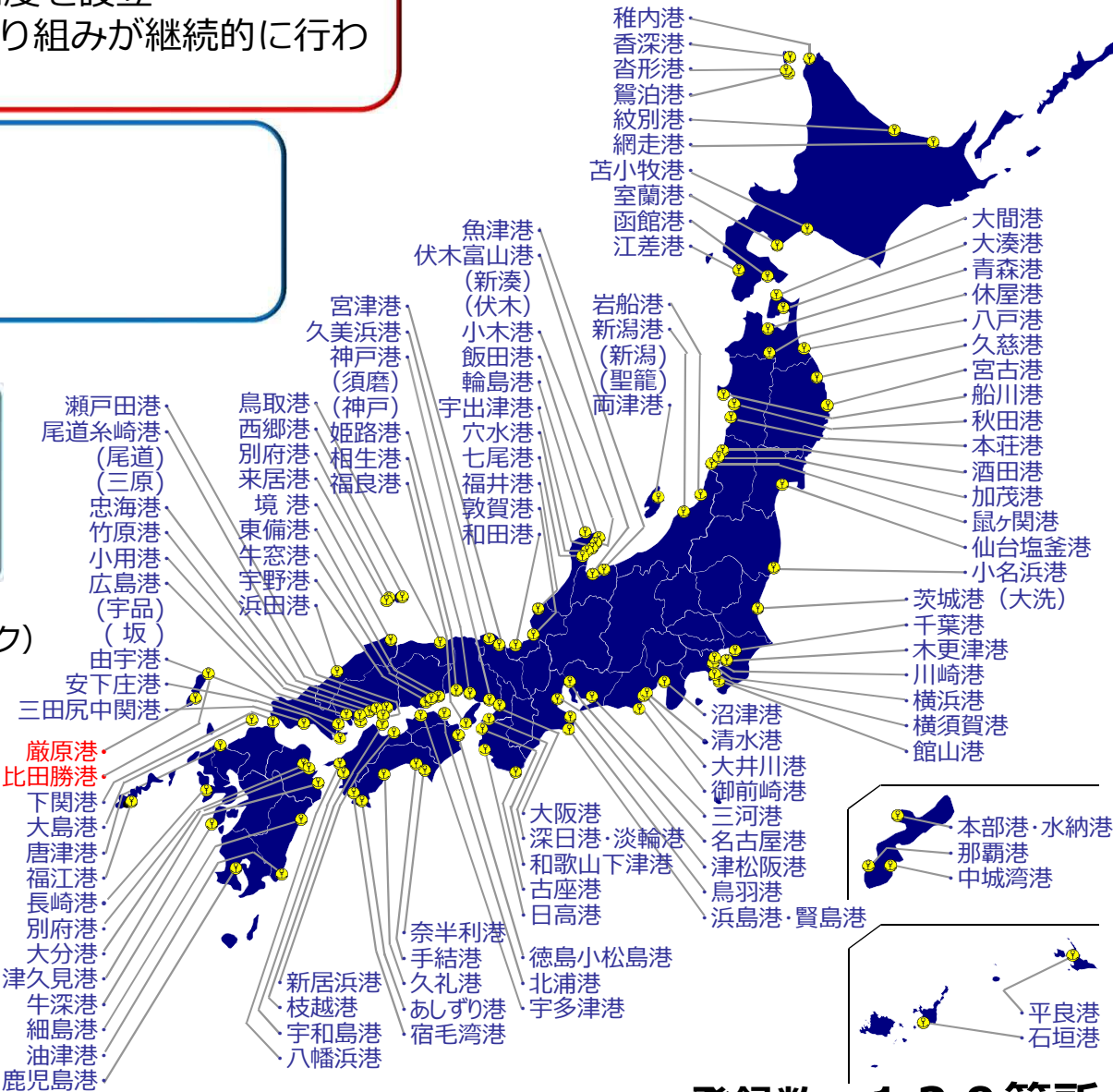
- ・旅客ターミナル
- ・地元産品の物販飲食店
- ・文化交流施設 など

○みなとオアシスの設置者・運営者

- ・地方公共団体（港湾管理者含む）
- ・NPO団体、協議会 など



標章
(シンボルマーク)



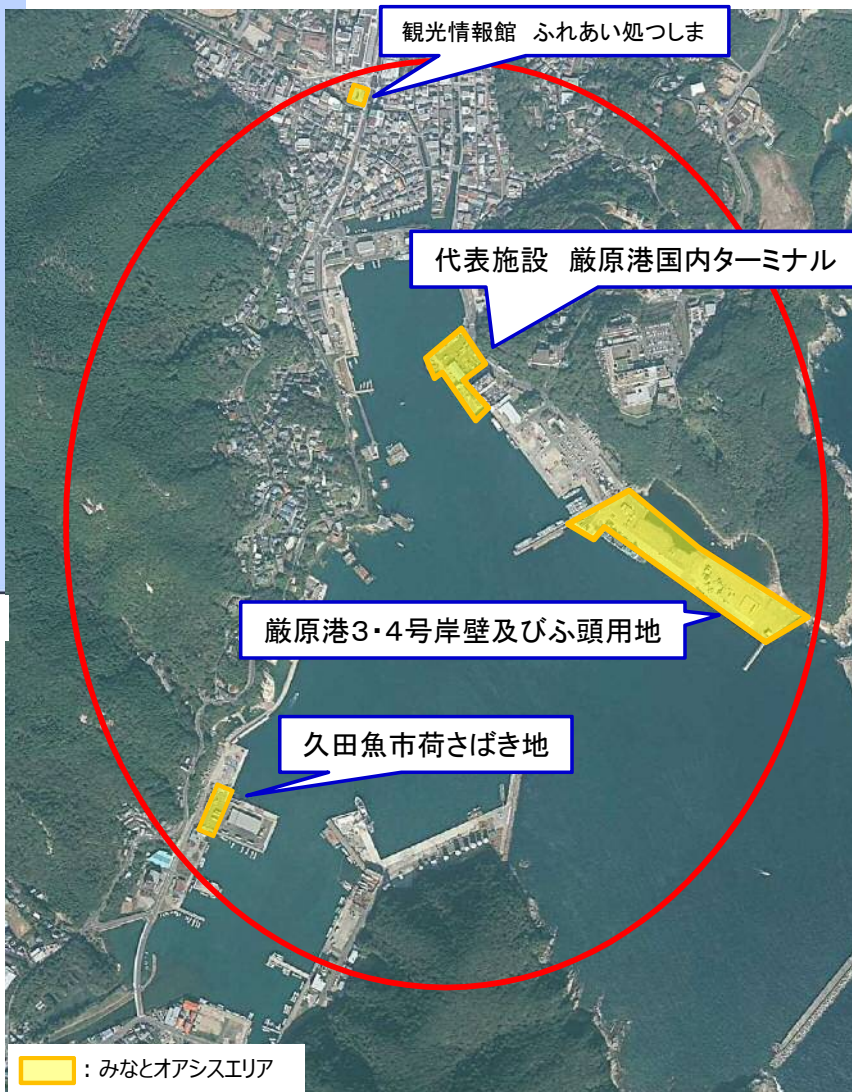
構成施設のイメージ



地域振興イベントの開催状況

登録数 **120箇所**
(平成30年8月4日時点)

「みなとオアシス対馬 厳原」の概要



【主なイベント】



対馬 厳原港まつり



対馬 厳原港まつり花火大会



朝市

国土地理院地図（電子国土Web）(<http://maps.gsi.go.jp>)をもとに国土交通省作成

【基本情報】	
設置者	長崎県対馬市
運営者	長崎県対馬市
所在港湾	厳原港（重要港湾）
港湾管理者	長崎県

【代表施設】



厳原港国内ターミナル

「朝鮮通信使」



朝鮮通信使は、豊臣秀吉の朝鮮出兵（文禄慶長の役）によって断絶した日本と朝鮮の国交を回復するため、徳川家康の意向を受けた対馬第19代島主・宗義智（そうよしとし）の外交努力により朝鮮から日本に送られるようになった外交使節団であります。江戸幕府の将軍が代わるごとに日本を訪れ、学問や文化の交流も深めております。使節団は対馬 厳原港から日本へ入り、江戸まで向かっております。対馬藩が朝鮮との外交交渉を担って、国交回復交渉から江戸時代を通して外交・貿易を展開し、両国の関係維持に尽力していました。

平成29年10月31日には「朝鮮通信使に関する記録」がユネスコ記憶遺産(世界の記憶)に登録されました。

現在では、8月初旬に開催する「対馬 厳原港まつり」において、韓国から正使・副使、舞踊団などを招請し、500名程の行列を再現しています。

万松院



対馬藩2代藩主・宗義成（よしなり）が、父・義智の冥福を祈って1615年建立し、菩提寺として特別の崇敬を受けてきました。桃山様式の山門、百雁木、徳川歴代将軍の位牌、朝鮮国王から送られた三具足等を見ることができます。

お船江



久田湾にそそぐ、久田川河川にある対馬藩の御用船を係留した5隻の船だまりのことで、別名お船屋ともいわれる。江戸時代、水辺の藩にはそれぞれ藩の船を格納する施設を設けていたということだが、遺存例が乏しい現在、日本の近世史上とても貴重な遺構となっている。

かすまき



『かすまき』は、餡をカステラ風の厚い皮で巻いた対馬を代表する和菓子です。江戸時代に参勤交代から帰国した藩主を迎える為に、当時ぜいたく品だったあんこをたっぷり使い、家中一同で喜びを分かち合うために考案されたと伝えられています。

「対馬 厳原港まつり」

厳原港で開催される対馬の夏を代表するイベントです！江戸時代に対馬藩が大きな役割を果たしていた国家的イベント「朝鮮通信使」の行列を再現したパレード、舟グロ（和船による競争）、納涼花火大会、子供みこし、歌謡ショー、よさこいなどが開催されます。



地蔵盆

万松院まつり

厳原八幡宮大祭



毎年7月24日の18:00頃～21:00頃まで対馬市厳原町で行われる「地蔵盆」。厳原では石垣に囲まれた旧城下町の角々に、阿弥陀如来の化身である地蔵尊が祀られています。「地蔵盆」は、古くから伝承される行事で、子供の安全と成長を願う祭事です。



一年に一度、百雁木（ひゃくがんぎ）と呼ばれる123段の石段にある約350基の灯籠に明りを灯し、御霊をお祭りします。闇に浮かぶ無数の灯籠が、幽玄な世界を醸し出す様は幻想的です。



旧暦の八月十五日に対馬市厳原では八幡宮の秋の大祭が行なわれます。厳原八幡宮は、古く白鳳6年、天武天皇の命により清水山の麓に社殿を造営して八幡神を祀ったのに始まると伝えられ、約1400年の歴史があります。



【交通・アクセス】

(飛行機)

・対馬空港から路線バスで約30分。

(フェリー)

・博多港から約4時間30分。

(高速船)

・博多港から約2時間15分。

【観光案内の問い合わせ】

【対馬観光物産協会】

電話：0920-52-1566

<https://www.tsushima-net.org/>

【対馬市役所 観光商工課】

電話：0920-53-6111

<http://www.city.tsushima.Nagasaki.jp/>